

秩父日記

二

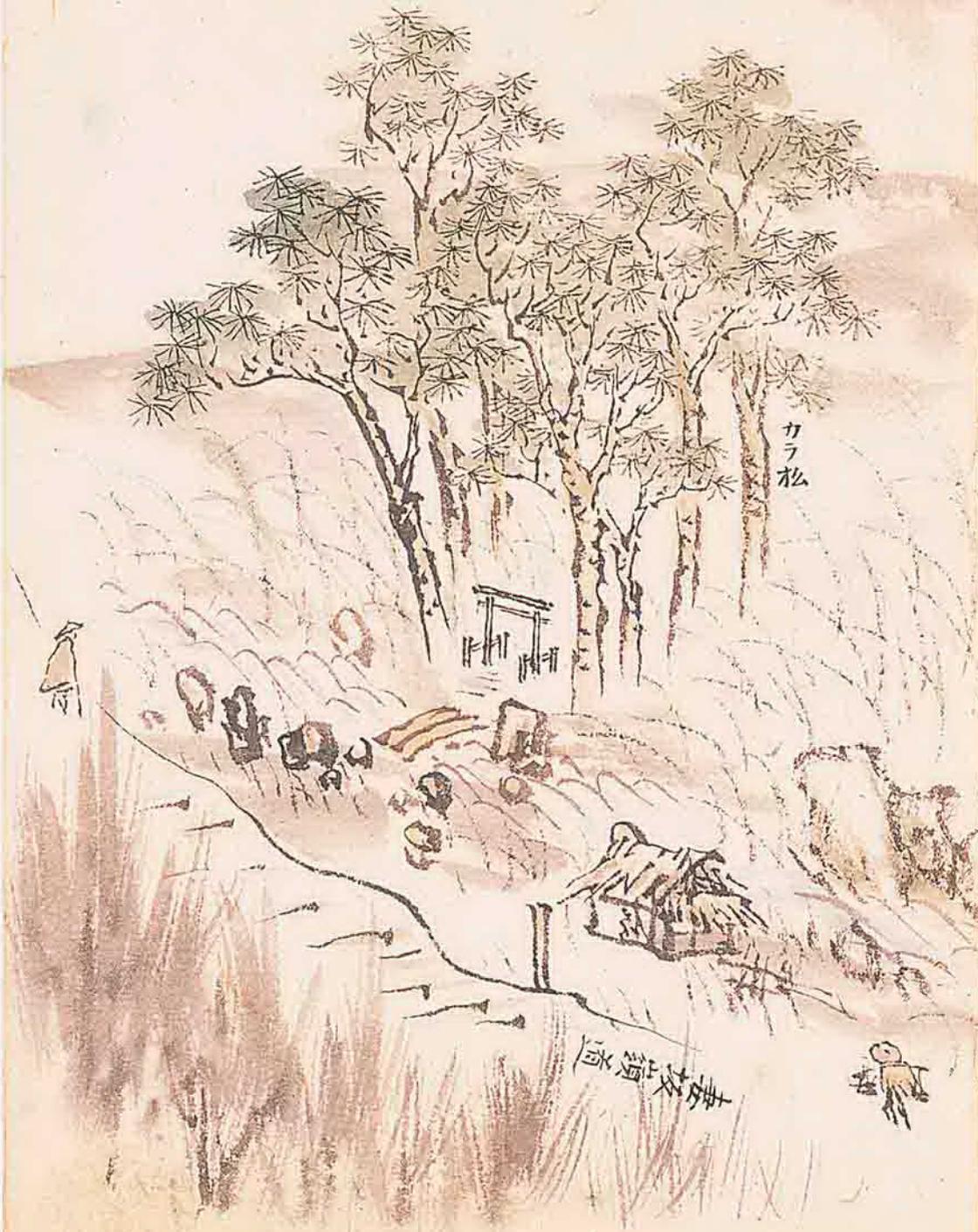
L8
7

20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 130 1 2 3 4 5



5497

八日リも雲あはれはるん多くする中にゆりの此のまゝ
たらぬういやうによろあやししぬしうらりく
ふいぬのさしいとゆやうめいる秩父の山人な
いふあらいはやとたらぬの聖いは道のりとういふ
ままいしきいくいゆいらつぬ直竹大澤入るまゝ
谷のゆいまいらく名栗林いちと谷のままら
いゆついらゆし梅入のゆいまいらくままら
いゆままらいのいゆいらくのいゆいらく
いゆままらいのいゆいらくのいゆいらく
いゆままらいのいゆいらくのいゆいらく



カラ松

武甲山



武甲山一鳥居

かねてゆかりの山を登りて馬場のいづかの處に
 巖峰をこぎし山路をゆく雲々の向ふに
 山も谷もえりつた鳥居の影をひく
 一公の
 華美の
 一



甲列下山の三百七拾五
まぬか人法あふら半
右の本所へはまゝ
雨定行ふらお遠隔も
の性忠信如件

天正十年
午のし


神君ゆ懐中朱印

切多子
佐原年々好

今日亦六後見與伴
城際に押詰一人
討捕に祿威入に添賜
粉も肩一走廻也如い女
件

二日亦六後見與伴
件

井上雅樂物矣

在劫二候城改割世此就
柳合感悦早仍而恐分
甲劫少石水鄉之內武高委
不寔行哥乃有遠東原知
涉書製甲時多勉軍般通
忠於心乃此信制也

不知仍而水作

元季三夜

山陰下書封

申三月日

年

三原

三度合越の河其郡之事 各被读合右
果の意の深知の儀之扶助 果御用去
南の書物下之の條

正一七九

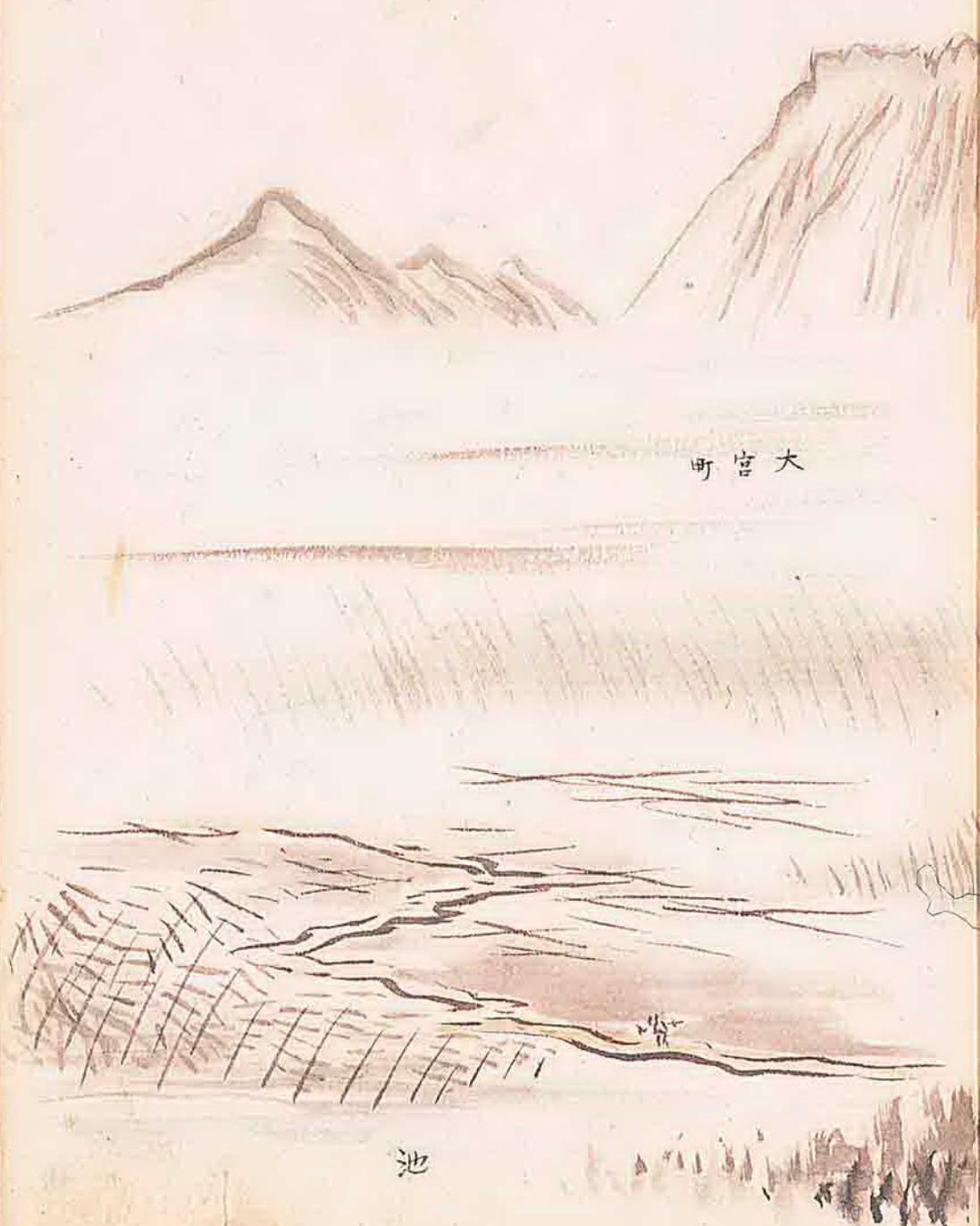
し代集

徳文部

三度合越の河其郡之事 各被读合右
果の意の深知の儀之扶助 果御用去
南の書物下之の條

正一七九 しの代集

徳文部



大宮町

池

両神山



妙見

札子番

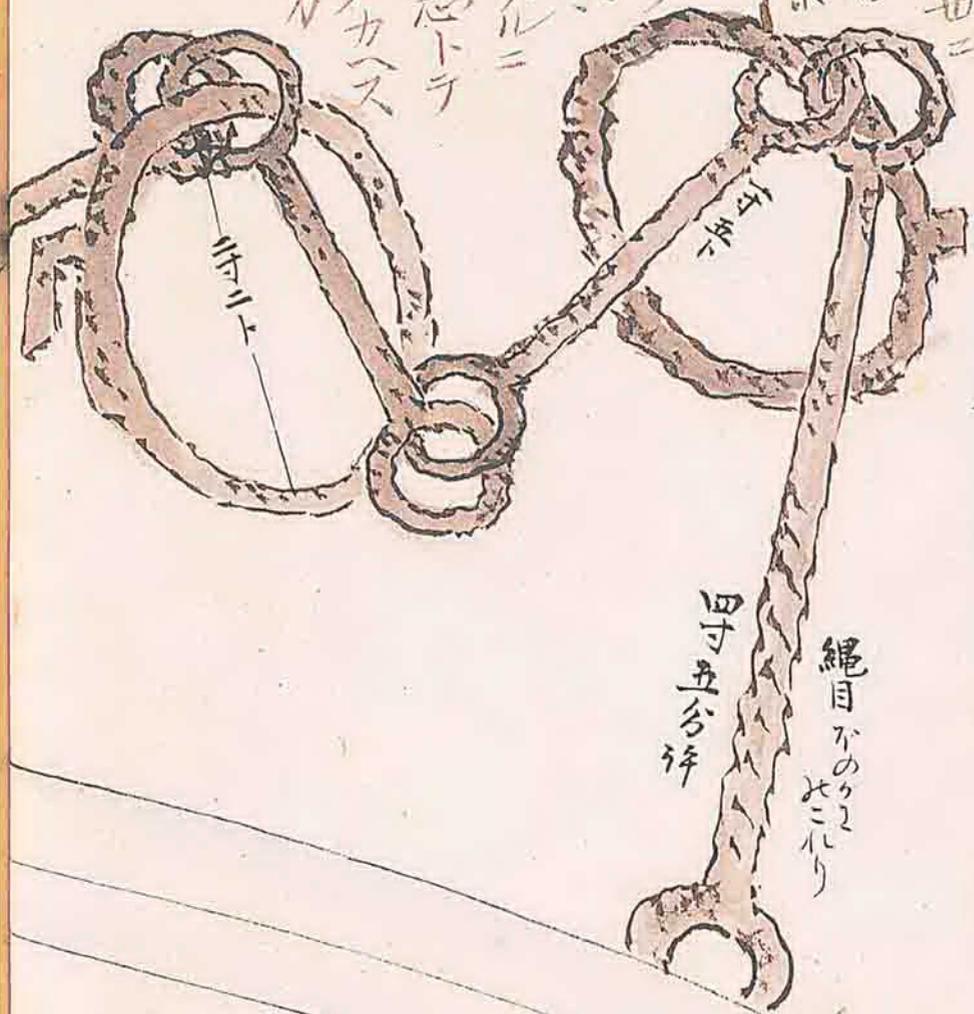
サカエホリ

十三日 山ノ下 入道の家より 丹波村の古蹟
 ありきり 出りし 山ノ下 古刀古書 此の 山ノ下 なる 山ノ下 あり
 ありきり 出りし 山ノ下 なる 山ノ下 あり

山ノ下 山ノ下 山ノ下 山ノ下 山ノ下 山ノ下 山ノ下 山ノ下 山ノ下 山ノ下

此古刀スナハキト首
 紐刀ニテ後世ニ
 サスガト云曾
 我物語権系
 是時ノ大襟
 妓橋ニサスカラ
 ステタルヲ其
 姫ヨリ返シタルニ
 逢マテノ記念トテ
 コソノコソケメカヘス
 ノミコソサスガ
 ナリケレ

馬銜 腐爛云々



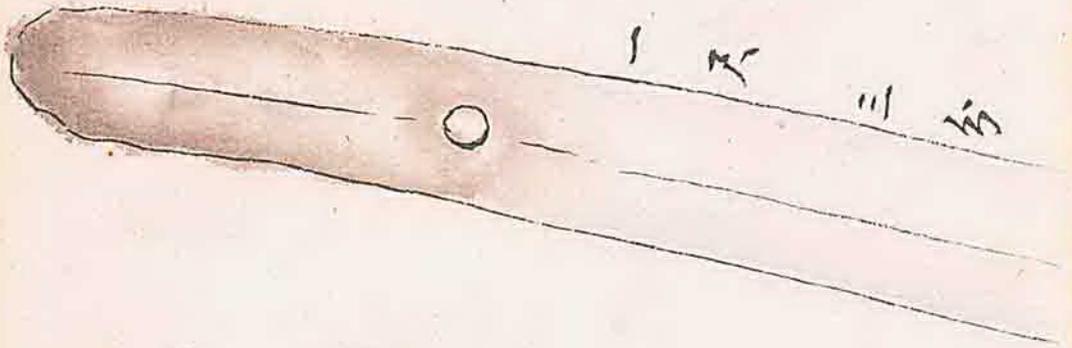
繩目
 四寸五分許
 此ニルリ

キツサキ
 今サレ
 マカレリ

大宮町久一所藏古器
 郡中井戸村の古墳より
 おふと云



七首
 モロハ



川



石劍
 此ハ古墳より
 ありといふ

寺
 外キトアリ
 許

ふれと之保長



鉄

十日白く久保氏の庭方なりしをいふ

世の流のりくしきいふにいふはなをいひ
妙見社のゆま入し僧殿場とていふかゝるの用
人まきりありていふにいふはなをいひ
衣の色ありていふにいふはなをいひ
と白くいふはなをいひの平の字のいふに
いふはなをいひにいふはなをいひ
て月とあり

夕日の影お山田の陸よりいふはなをいひ
世の流のりくしきいふにいふはなをいひ

十七日はまきりくしきいふはなをいひ
くしきいふはなをいひにいふはなをいひ
物まきりありていふはなをいひ
いふはなをいひにいふはなをいひ
と白くいふはなをいひにいふはなをいひ
十六日とありていふはなをいひ
いふはなをいひ

いふはなをいひにいふはなをいひ
いふはなをいひにいふはなをいひ

率

武甲山

上平

丹生町

北下

川原橋

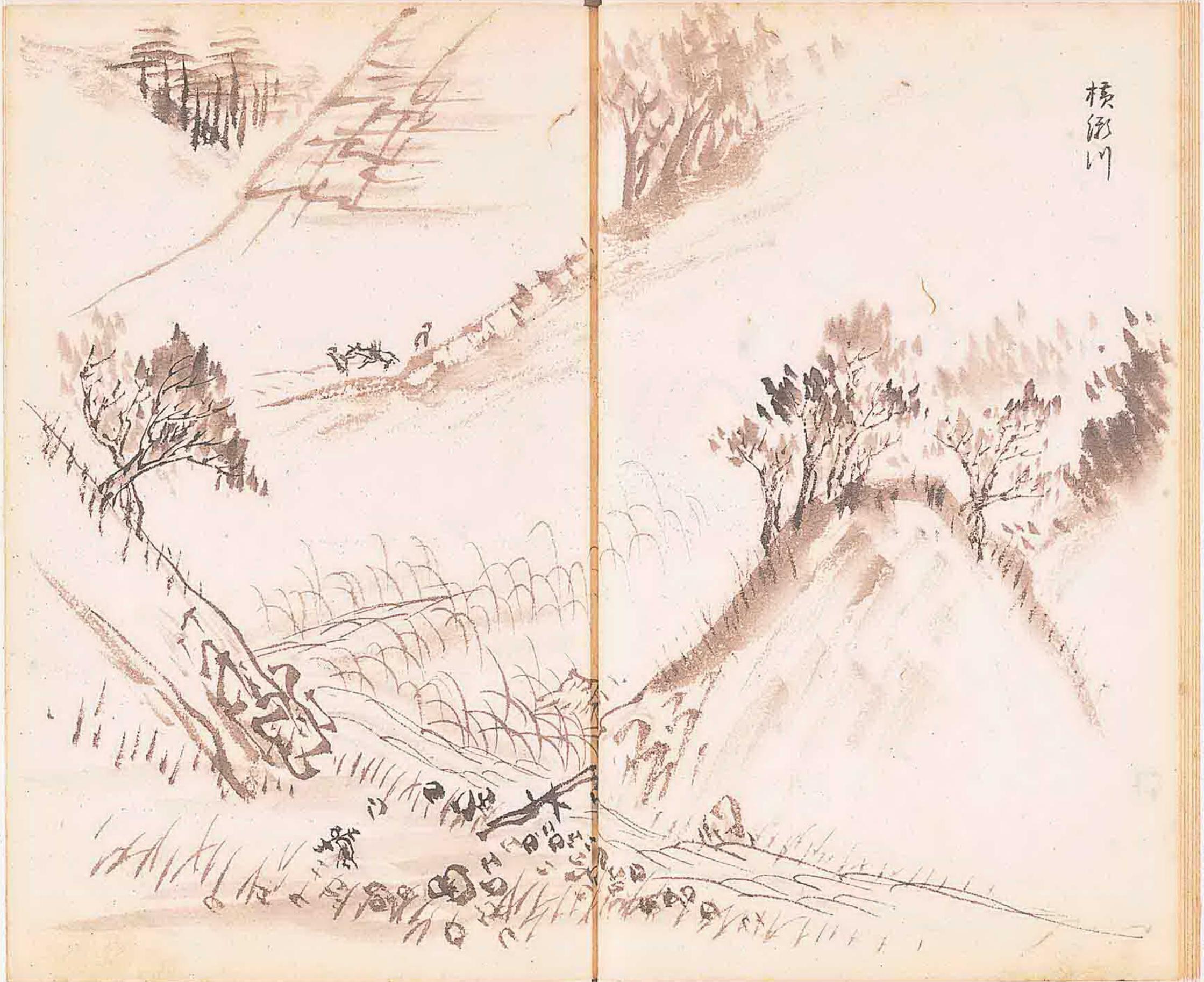
棚窪

北

スミヤ



横
河
川



鑑死明神恒持大明神を以て社道の申すといふ
いせり深きかたの世にききてぬみ神も昔けり
山田村に橋を永頼と云ふ歌人ありとよりてたぬみ
うみあそびのありし庭をあらわす所の書
あるにゆかりしちりぬのこゆるを我々の
ゆかりとあやしかく存せり

寺との庭よりしりぬの庭はつかるまゝぬ
いと平積やもかゆい道のりより四方社のゆきま
はりて観音のまゝのまゝゆかり人のあやま
商人ゆきまといふ字ありしに林ありて

いせりおしむぬの

秋風よとほむるもあはれいづはの
いと新築文はるも古き文書ありとあやま
あやふふとくく御形の彼よりたぬみかき
の印ありしに

あやのあやま
あやま

栢谷村里正神為總祀四藏古文去九通
何ともし返りしに五寸八余幅一尺五寸

いせり

と友方美人合戦二枚
之名は忠義の神先
日南小江戸陽徳の時
三津谷と与橙合戦
走廻る毎夜神神
妙は仍と三津谷武橙

世々地々と世々
如件

十月十日庚辰
日

神谷右衛門

今交為使漢
雞不食飲
何和牛
下三起行
狀如

九月白乙亥
狀如

狀如新

受領

右五山城書之件
仍此件

天正十六年

五月
出

五山城書之件

炭燒亦誌役
再冥津新本口
何以之免行以多
北句以中觀者
有之今之石合上
名也何也何

虎印

成原
十二月一日

之君子台

廣德中

解
謝友平買

知巧也

六三三

三三三

三三三

三把

役綿

三三三

三三三

三三三

三

右先年法政也

位也年三三三

水件

三三三三三

七月廿六日

虎印

新友集

錦役之事

石田十右衛門

日或戸

大吏

片林

右三津世書之地

從清平城之成業

相承又相遠

之言亦多知新

うり買ふ公方錦

に袍一也の故

所を是也旨

初よりし

永禄七年

六月十八日

甲子

虎印

錦役之事

下地可也事

三書之百八
唐年之百
思海新集

〇〇

右先年一書信

砌一初一也一也中如升

相商之地無一為伎

地也至也山水件

永祿九年丙寅

鹿印

其月之三日

年

新在軍中

知切可

空百幸久
三
百回分端

山

右先年校者位阿分

一可一幸七之作一書

付之始地幸之另有百姓

亦知角中他取座福

右有之之見合攝補

可多枝處之何也何

五幸之連申

七月廿六日

虎印

神友八生友

三三三三三

如过

三三三三三

增金

上三三三三

右为林本工物

依其之作付以

以年之尔其

以能之与納

吉也何如件

申
廿六

虎印



神友在堂

日くわくふとせいの水穂は道よりつらぬき
くわく山踏もく横来川とちわたりし
けりありぬれぬも人こころかじとて
あふ名のと大力のしとげふは
くまやふくくして大越長もつて

河原の宿をたぐりていふは

妻なるおとまり横来川とて

とふ？上のひびくや

十九日午の上の平より人別
おとまりのひびくや

ふり三日あつていふは

二十日あつて年の所は

二十一日あつての所は

おとまりのひびくや

おとまりのひびくや

おとまりのひびくや

おとまりのひびくや

おとまりのひびくや

おとまりのひびくや

おとまりのひびくや

玄十七於甲別水谷
春敵一人討獲
之乃之至感吃
流丁去知也
河少月

心月世言

思

横濱村里正聖成由師治所藏古文云

横瀬の介氣の成り事

合目松の葉の白粉をとりて若菜の油

の油をとりて取らるゝ山をたきおとし

木下葉油を積り油をたきおとし

三葉の葉

とりおとし

三葉の葉

きりり

かきおとし

かきおとし

日

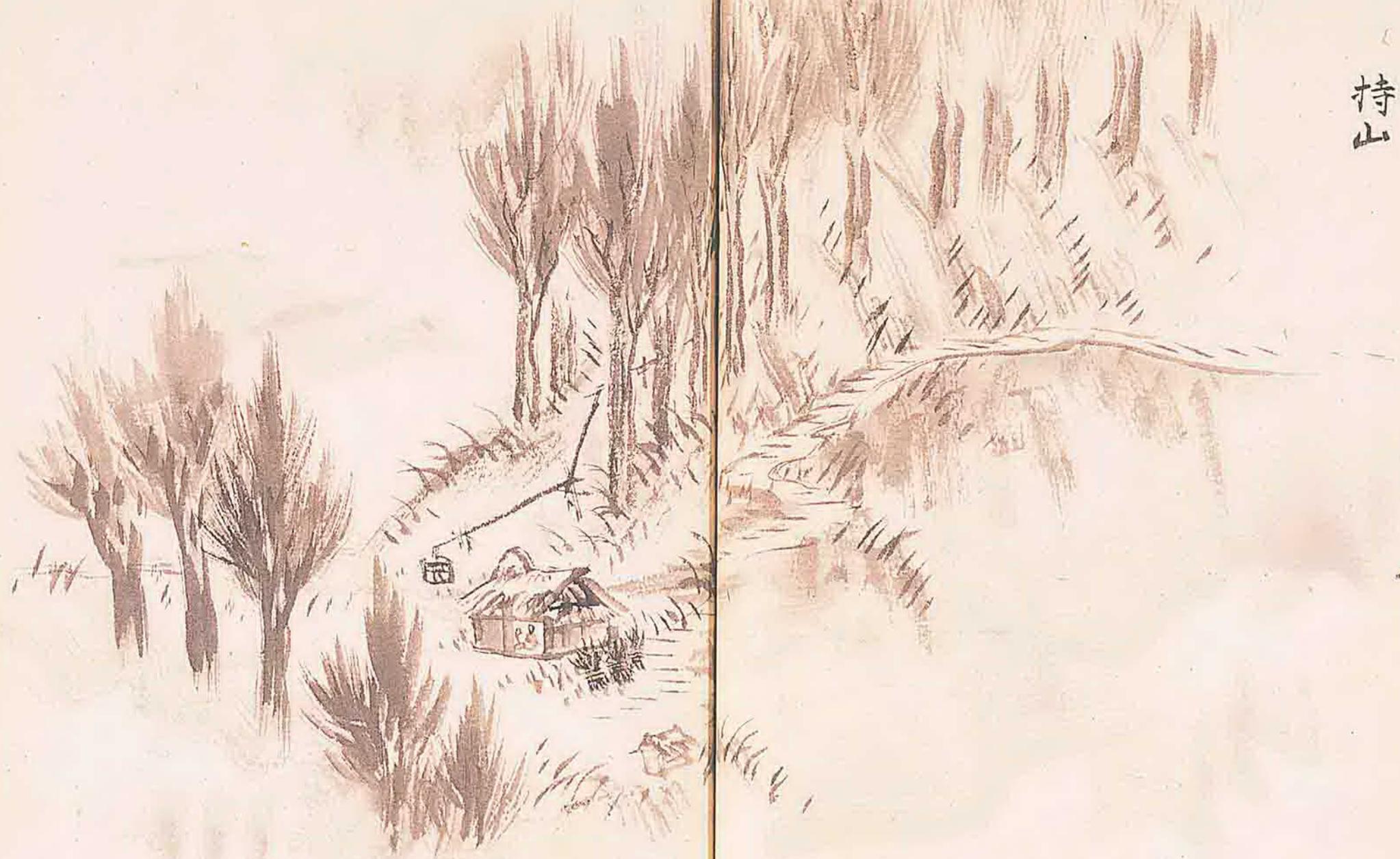
日

日

三葉

同

持山



持山寺場石

三六
石

石佛



二十六日かしのやまに
 かねてよりきくまをたかひく
 松のまはる

ちよふに峰のまはるは
 のまほ入のまはるは
 まはるまはるのまはる
 まはるまはるのまはる
 まはるまはるのまはる
 まはるまはるのまはる
 まはるまはるのまはる



大指

かきしをゆりふちりふちりて大越氏よりせしきし
前田村一瀬氏と傳へりは古き文書をききしとあり
あつてはわがやうりよへあはせざるにしりまかんとあは
ねるふしち捨つるききしとこのしりまかんとあは
ふ言ひ

二十八日ゆきりふちりて前田村より古文書りふちり
とあはせりふちりしりて一日りぬえんとしり
りきりふちりしりて前田村より古文書りふちり
とあはせりふちりしりて一日りぬえんとしり

考の如く寝よおのりてあつてはわがやうりよへあはせざるにしりまかんとあは

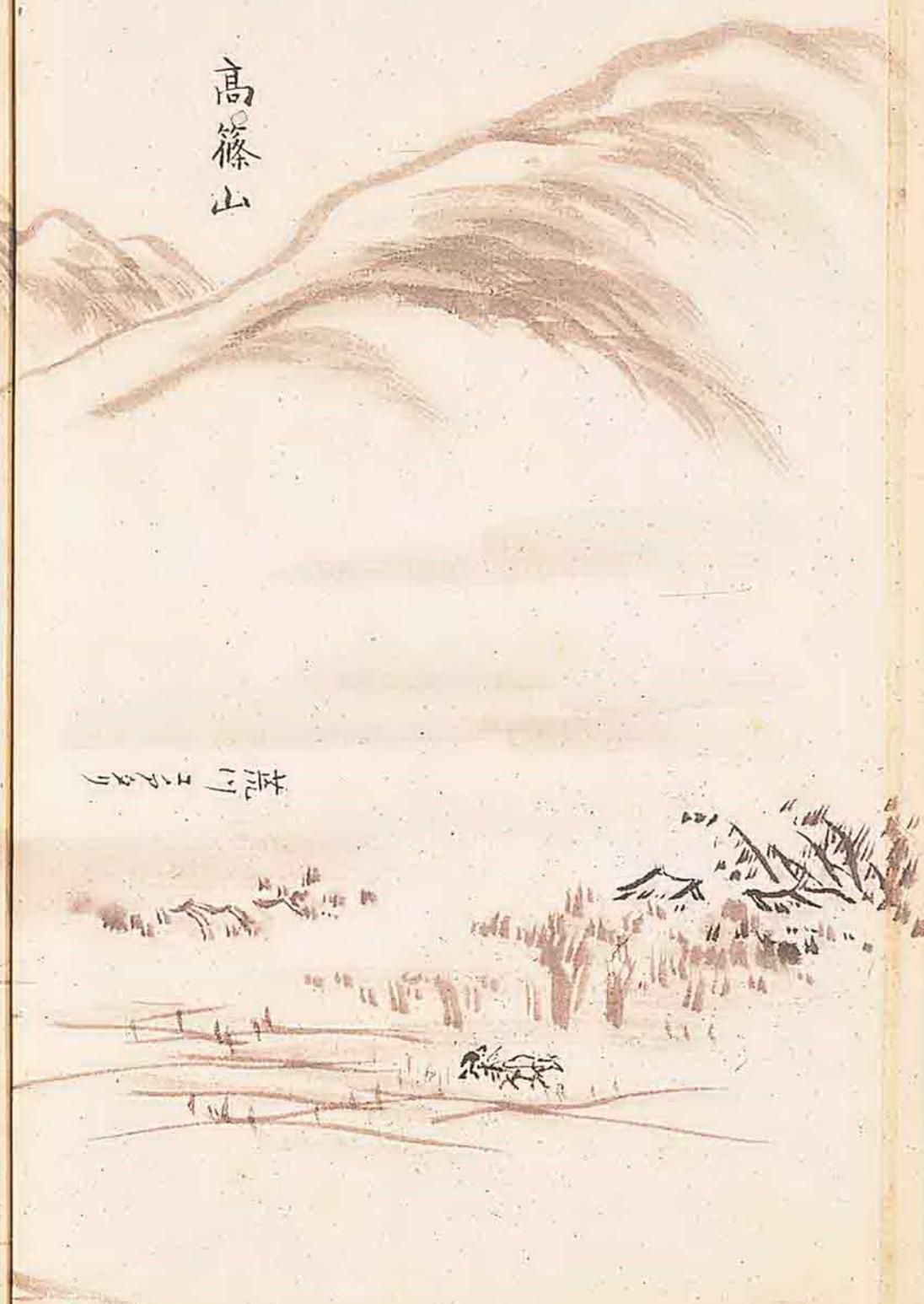
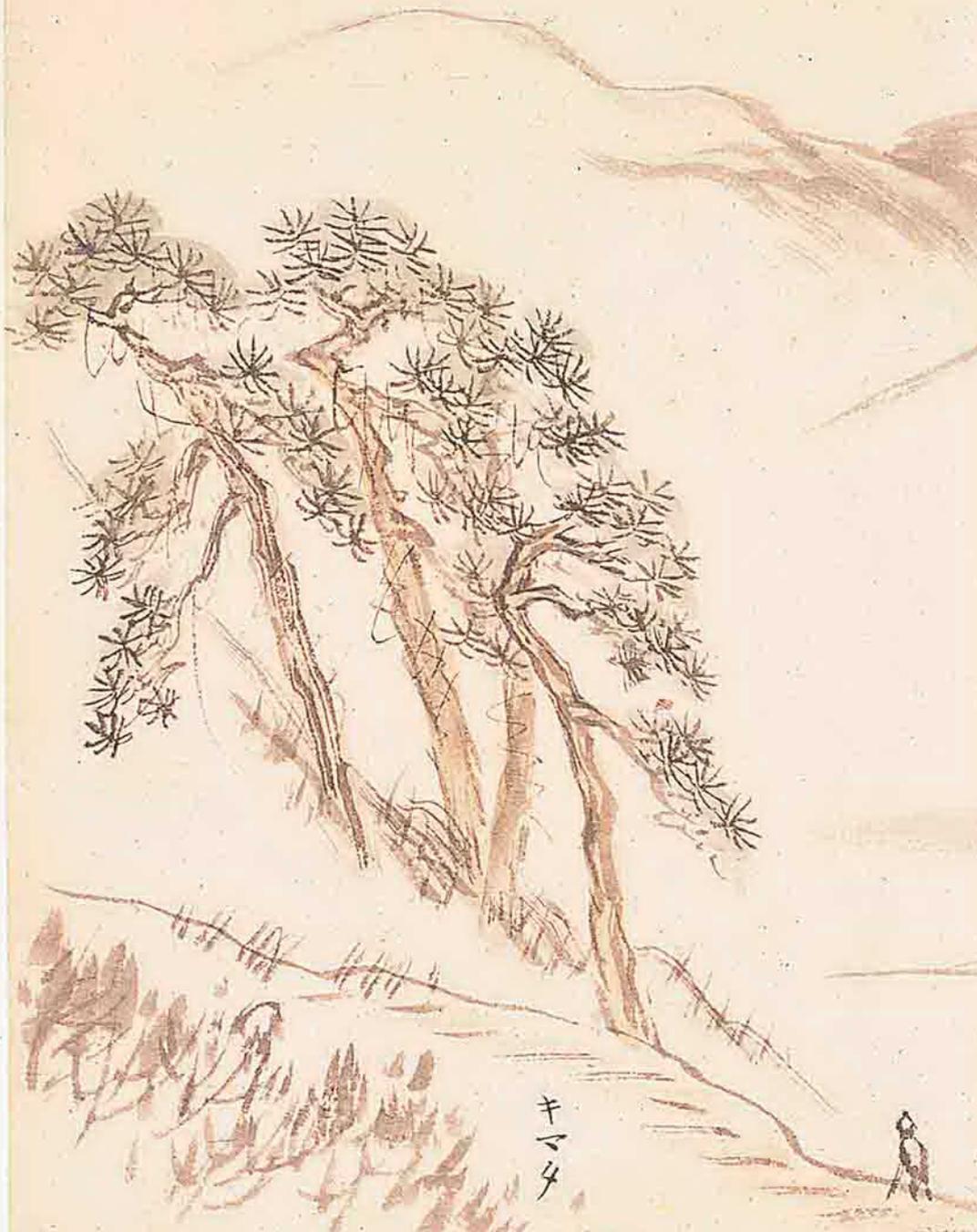
二十九日ゆきりふちりて後をせんいたしき大越氏
よりせしきしとあはせりふちりしりて一日りぬえんとしり
たんのはまのりてあつてはわがやうりよへあはせざるにしりまかんとあは
山路をてゆゆの枝よ路の急きつてしりて
りきり高岸山よりふちりてあつてはわがやうりよへあはせざるにしりまかんとあは
のすりてあつてはわがやうりよへあはせざるにしりまかんとあは
の長月ゆきりふちりてあつてはわがやうりよへあはせざるにしりまかんとあは

遊し秋のふちりてあつてはわがやうりよへあはせざるにしりまかんとあは

高篠山

北河エノケ川

キマ

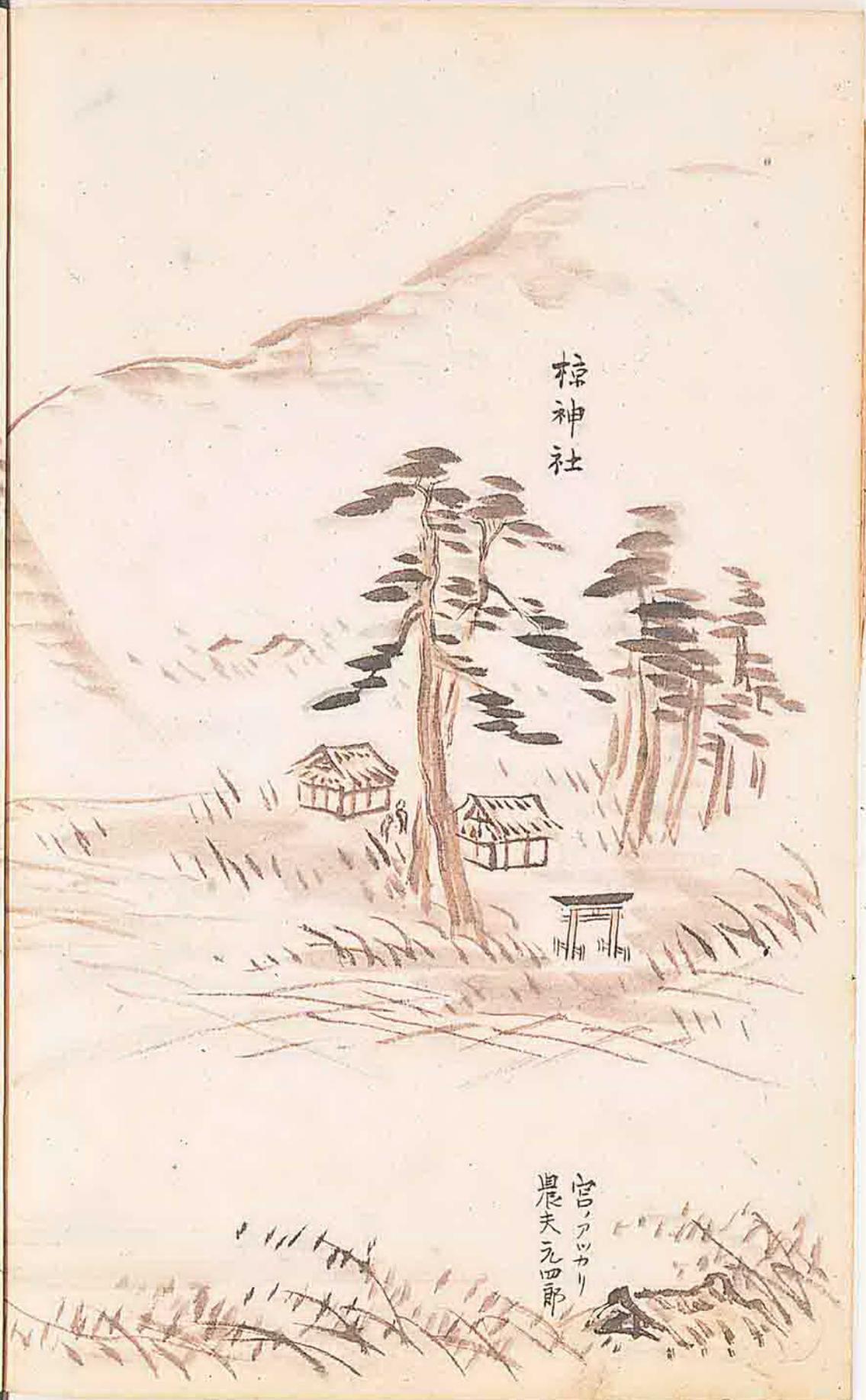


この家いずる藤田氏より山一圖書助より書津
 形より入して子書しとあり名いそれよりつらんか
 形よりいそ藤澤部宗居村のわらふる正龍寺と
 いふる禅杖より氏邦より孫のり什物ありと者
 道のよりありいりぬあんと早くとくひましおくは
 又中前田とよみより模明神より式白の心神
 おとよりそのゆつ子よの家よりせりとこれいそ
 のよりぬきとよよりと社よりあおむる石叙と
 こいそよりなる石の性質かこいそとよより
 よの物とよいし

椋神社 神體

総長三尺許





そらちり和調のちり
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら

